

キタンパ・イエシエーペル著

「リンチェンサンポ伝」中本の和訳（二）

井内真帆

本稿はチベットの後伝（チタル *phyi dar*）の初めに活躍した「ロチェン」（大翻訳師 *lo chen*）と称されるリンチェンサンポ（*rin chen bzang po*, 958-1055）の伝記の中本、キタンパ・イエシエーペル（*khyi thang pa ye shes dpal*）著「菩薩翻訳師リンチェンサンポの本生である難行の灯明，伝記『水晶瓔珞』」（*byang chub sems dpa' lo tstsha ba rin chen bzang poi' khrungs rab dka' spyad sgron ma rnam thar shel phreng lu gu rgyud*）の後半部分⁽¹⁾の和訳である。前稿の井内（2021b）では11項目ある伝記の内容のうち、第6項目までの翻訳を掲載した。本稿では後半の第7項目より翻訳を示す。

和 訳

凡 例

1. 和訳に際しては中本 A を底本とし、特に中本 D 及び中本 E とも比較した。
2. 中本 A, 中本 D, 中本 E のそれぞれのテキストにおいて記述が異なる場合は下線を引いて註に記した。
3. 中本 A, 中本 D, 中本 E のページ番号及びフォリオ番号を [] 内に示した。
4. [] によって意味を補った。
5. 見出しを () によって付け加えた。

[7]（インドの東方に行かれたことについて）

第七に、インドの東方に [D : 25b] 行かれたことについては、[E : 42] 神足 (*rkang mgyogs*) の成就法によってすぐに行かれた。インドの師ジナミトラ

(jinamitra) と師ジュニャーナ (jñāna) と師シーレンドラボーディ (śīlendrabodhi) の多くの師とパンディタに [A : 85] 法を受けて、経部、律部、論、別解脱、三百頌、大般若経広本、大般若経中本、[D : 26a] 二万頌般若、千八百頌般若⁽²⁾、八千頌般若、陀羅尼などの数限りないものを翻訳して校訂し、決定した。他にも顕教と密教、数限り無い教えを受けた。観世音菩薩の法をたくさん翻訳した。この師からこれを受けて、[D : 26b] このパンディタからこれを受けたということなどは、ここに文字が多くなることを恐れて書かなかった。インドの東方においてラマである大翻訳師 (リンチェンサンポ) は僧イエシェー [A : 86] デ⁽³⁾ (ye shes dhe) として知られた。

それから、[再び] インドからカシミールに行かれて、パンディタ・シュラッターカラヴァルマン (śraddhākaravarman) の御手から経などを受け取り、読経する分を持って行かれた。[読経] しないものは [D : 27a] シュラッターカラ [ヴァルマン] の御手に残した。それまでで [E : 43] インドとカシミールに [居られて] 10 年が経ったという。

カシミールからキュワン (kyu wang) に神足 [の成就法] によって行かれて、6 日で着いた。父親は以前に亡くなっていて居られなかったという。[インドの東方に行かずにすぐに] カシミールから帰って来なかった [からだ] と思い、強い後悔が [D : 27b] 生じたと [リンチェンサンポは後に] おっしゃった。父親のために 7 つの悪趣清浄 (durgatiparīśodhana) の曼荼羅をお造りになった。

それから、プランに行かれた時、[A : 87] 草の上で座禅をしている一人のチベット⁽⁴⁾ の善知識が現れたのに対して皆尊敬し信仰した。不思議なことが生じたので、ラマである翻訳師はお考えになって、それ (善知識) はペカル (pe dkar)⁽⁵⁾ の変化と [D : 28a] おわかりになり、一ヶ月深い行に居られた。そして、彼 (善知識) の所に行って、[自分の] 手の期克印を見せると、彼 (善知識) は真っ逆さまに回って地面に沈んで行った。それ以後、ラマである翻訳師は尊敬されるようになった。

そして、大ラマ・ハデツェン (lha lde btsan) が招いたパンディタ・プラジュニャーカラシュリーミトラ (prajñākaraśrīmītra) と [D : 28b] スヴァーシタ

(6) などのたくさんの賢者 [A : 88] をお招きして、広・中の般若経 [E : 44] などを翻訳した。すなわち、75 人のバンディタから正法をたくさん翻訳してお聞きになった。

[8] (寺院の建立について)

第八に、[リンチェンサンポは] 大ラマ⁽⁷⁾・ハデによって供養の対象と金剛阿闍梨をなさって、プランの [D : 29a] 根拠地を差し上げられると、根拠地と三宝にお仕えなさる方法として、プランのシェル⁽⁸⁾ からホプランカ (ho bu lang ka)⁽⁹⁾ の間に百のお堂をお造りになることを承諾された。そして、大ラマ・ハデがカチャル (khwa char)⁽¹⁰⁾ のお堂を建立する請願をして [A : 89] グゲにいらっしやったこと、[D : 29b] ハラマ・イエシェーウー (lha bla ma ye shes 'od) が [請願して] トデインの 12 の島 (須弥山) を建立されたこと、マルユルにニヤルマ (nyar ma)⁽¹¹⁾ を建立されたこと、の 3 つの基礎を一日で行った。そのようにお堂をたくさん建立されたことと、正法をたくさん翻訳したことは数限りない。そのように、ラマである大翻訳師は、プランより [D : 30a] 西に行かれた。小翻訳師レクペーシェーラプ (legs pa'i shes rab) は、サキヤより東で翻訳をした。[E : 45] [リンチェンサンポは] 母上が病気をせず寿命を伸ばすために [A : 90] 7 つの無量寿仏の曼荼羅をお造りになった。母上はそれ以後も 18 年 [D : 30b] 長生きした。

そして、プランのカチャル、グゲのトデイン、マルユルのニヤル [マ] の 3 つのお堂の盛大な落慶法要を行った。後に、プランの人は「ラマである大翻訳師はここに居られてお堂を建立され、[D : 31a] 落慶法要をなさった」と言い、グゲの人は「ラマである大翻訳師はここに居られた」と言い、マルユルの人は「ラマである翻訳師はここに居られた」、と [それぞれに] 言った。[そのことを] ラマである大翻訳師に尋ねると、「その 3 ケ所ともにわたしが居たことは真実だ」とおっしゃった。

(2度目のカシミール留学について)

それから、ラマである大翻訳師に [A: 91] ハラマ・イエシェーウーが、「ラマである大翻訳師よ、カシミールの [置いてきた] その経を受け取ることと、[D: 31b] 巧みな仏師たちを連れて来て下さい」とお願いすると、[リンチェンサンポは] 行くことを承諾なされた。そこで、王である菩薩 (ハラマ・イエシェーウー) が、「ラマである大翻訳師を派遣するために馬と象を差し上げたとしても、インドの切り立った道では [E: 46] 通ることができない。金と銀を差し上げたとしても、遠いので運ぶことができない。[D: 32a] 智慧のある 15人の若者を従者として派遣しよう」とおっしゃって、8種類の骨を費用として差し上げて、[リンチェンサンポは] 再びカシミールへ行かれた。そこで、ラマである大翻訳師は、[A: 92] 「わたしが多くの法を知って有情のためにすることは、御父母2人の恩恵であるので、カシミールに特別な父上の供養物を [D: 32b] 建てよう」とお考えになって、金を20サンほど持って出発した。

カシミールで真鍮を求めてたくさんお買いになり、巧みな仏師のビダカ (bhi dha ka)⁽¹⁵⁾ という者によって父上の代わりとして父の背丈と同じ観世音菩薩をお造りになるように請願して、ラマのシュラッターカラヴァルマンが善住をなされた。故郷から持って来た金20サンのうち、5サンはラマを喜ばせることに使われた。[A: 93] [D: 33a] 5サンは落慶法要のお祝いにお使いになった。5サンは仏師の費用になされた。⁽¹⁶⁾ 1サンを賃金にして [運搬を] 頼んで、⁽¹⁷⁾ [E: 47] 供養物 (観世音菩薩の像) をカシミールから木の荷車でお招きして来る時、マハーサンガラ (ma hā sang ga la) という橋で、供養物の御手が岩にぶつかって薬指の先が壊れた。故郷を出て13ヶ月して再び、供養物は故郷に着いた。[リンチェンサンポは] キュワンは供養の地ではないと考えて、供養物をカツェのコカル (go khar) にお招きし、60人の比丘に [供物を] 差し上げて、法会の費用も差し上げた。⁽¹⁸⁾

[A: 94] [D: 33b] ラマである翻訳師は、カシミールにおいて、弟子たちの指導と法を最後まで受けることに6年間費やした。6年経って32人の仏師を伴って [帰って] 来られた。そして、大天 (lha chen po) であるラマのイエシェ

ーウーにお会いになろうとお考えになり、トディンに行かれ、カシミールからお招きしたたくさんのパンディタと同席した。ハラマ（イエシェーウー）は、「翻訳師リンチェンサンポよ、あなたをお招きする者を送ろうとした時、あなたが到着した。さあ、ここであなたからこの比丘のパンキュ（spang khyu）に翻訳を学ばせます」とおっしゃり、[パンキュは] 翻訳を学ぶことと文法学と [A : 95] 因明に精通して「パンキュ翻訳師」と言われた。⁽²²⁾ 彼ら師 [リンチェンサンポ] と弟子 [パンキュ] の2人もまたその [カシミールから来た] パンディタたちから法をたくさん翻訳をした。

そして、キュワンに母上が亡くなったので行かれて、3つの悪趣清浄曼荼羅を開き、母上のために1つのお堂を建立されて、落慶法要をなさった。⁽²³⁾ その時、ハラマ・イエシェーウーがご病気であって、すぐに会いに行かれたが、重い病気であって [D : 34a] お会いできなかった。⁽²⁴⁾ 葬儀の悪趣清浄曼荼羅などは翻訳師である [A : 96] 彼自身がお造りになった。供物については、大ラマのハデが、[リンチェンサンポに] 大ラマである菩薩（ハデ）の21の小さな土地を差し上げた。供養として、21の根拠地である21の小さな土地に [D : 34b] 毎年経典を3組ずつ、十万般若を7組ずつなどの数限りない身・口・意の供養の対象を贈り物となさった。

[9] (ベマメージュン等のお堂の建立について)

[E : 48] 第九に、カツェのコカルにお堂などを建立された有様は、[以下の通りである。] 13の父親の家系が13のお堂をお造りになる相談をして、基礎を一日で [D : 35a] 終わらせる話し合いをしていたが、[A : 97] [リンチェンサンポ自身は] 大翻訳師のお堂を先に [建立] すれば後に全てのお堂が安定するとお考えになった。翻訳師（リンチェンサンポ）が基礎を一日前に [お造りになり] 終えたので、父方の兄弟たちが嫉妬して、翻訳師のお堂よりも [D : 35b] 兄弟たちのお堂 [の高さを] を高くした。そして [リンチェンサンポは] 全ての仏師を必要として方々に建立なさった。善住と法要などはすべてラマである大翻訳師がなさった。

それから、ご生誕の地であるので、[A: 98] キュワンのレーニに⁽²⁵⁾須弥山のよ
うなお堂を建てるといふ [D: 36a] お考えがあったが、[それに対して] ルドク
メン (klu 'brog sman)⁽²⁶⁾ [の] ザラマティ (dza la ma ti) の四姉妹が嫉妬して、レー
ニには 8 人の尊者がいたが、8 人とも病気になった。それに対して [リンチェ
ンサンポは] 冬にキャムシユク (gyam shug) [E: 49] で行をなさって、春には
キュワンの苗を 3 デ (bre) 植える [ことができる] ある畑に [D: 36b] 秘密集
会 (guh-yasamāja) の曼荼羅をお造りになってその中央に大きな鎮魔孔を建てて
燃やす必要があるとおっしゃった。すると、ザラマティの四姉妹が実際にやっ
て来たので、ラマである [A: 99] 翻訳師は、「全ての弟子たちよ、少しの間、
太鼓を叩かずに寢室にいる」とおっしゃった。大翻訳師は畑の上の方に [D:
36a 下] 行かれると、[四姉妹は] 命と心臓を捧げて制伏され、仏の教えを守る
ことを同意する約束をした。特に、メンザラマティの前髪を切ったものが 2 ポ
ドム (pho 'dom 男性が手を広げた長さ) あって、[それを] 3 ト (mtho 親指から中指の
長さ) の大きさの入れ物に入れたものをレーニのお堂の下に宝として埋蔵した。
[D: 36b 下] 命の心臓を差し上げて、密名をナムカーティメーマ (nam mkha' dri
med ma) と名付け、[A: 100] レーニの⁽²⁷⁾ペマメージュン (padma med 'byung) のお
堂の護法神に任命して成就法を伴った完全なものになさった。⁽²⁸⁾[E: 50] お堂に
も秘密集会の諸々の本尊をお造りになった。ザラマティの四姉妹から年長の
[D: 37a] メンドクモ (sman 'dog mo) をカツエの⁽²⁹⁾サルナマ (zar na ma) [の] カツ
エハカン (kha tse lha khang) などの護法神に任命した。その下のツェンドクモド
ムルマ (btsan 'brog mo dro mur ma) を⁽³⁰⁾ギユランカンマル (rgyu lang gang dmar) の護法
神に任命した。その下の⁽³¹⁾ドウドクモソクムルマ (bdud 'brog mo srog mur ma) をス
ムナム (sum nam) のお堂の護法神に任命した。ルドクモメンザラマティ (klu
'brog mo sman dza la ma ti) は [A: 101] 四姉妹の年少である。居士のラサクチェ
ン (ra slag can) を制伏して、[D: 37b] 仕事をする召し使いに任命した。ロンチ
ユン (rong chung) の全てのお堂の財産を守る者に任命した。これは魔王の王女
ヴィナヤカ (bhi na ya ka) ⁽³²⁾という。ラサクチェンともいう。ペカルとト (dro), チ
ャクベル (lcags ber) というこれらは同じである。ゼツェマラ (rdzal rtse ma la) と

ドルジェタワマ (rdo rje dra ba ma), ロクギユルマ (glog 'gyur ma), ラサクチェン
の4人の主人と従者が囲んで [D: 38a] 息災法をなされた。お身体の色が明る
い黄色を示した [A: 102] ルドゥモ (klu bdud mo ナーガの魔女)⁽³³⁾ の従者が囲んで
降伏の [E: 51] 成就法をなされた。

ペマメージュンのお堂の身・口・意の供養の対象と仏具の内容は [以下の通
りである。] 特に見飽きることのないトゥ (kru 肘から指先までの長さ) の大きさの
象牙の大悲観音菩薩の像があった。[D: 38b] 菩提樹でお造りになったすばら
しいヘーヴァジュラ (hevajra) の供養物があった。インドの文字でインドの樹皮
に書いた秘密集会の巻帙があった。この3つをお堂から動かしたならば、将来、
在家の人に悪いことが起きる。他にも [A: 103] 銅と真鍮などでできた供養物
が合わせて [D: 39a]⁽³⁴⁾ 49 あった。巻帙は三蔵が完全にあった。すべての広・中
の般若経 (十万頌般若と二万五千頌般若), 十八の般若経を合わせて, [さらに] 千
八百頌般若が2セット, 八千頌般若が5セットで, つまりすべて合わせて 468
巻帙があった。[D: 39b] 仏具は, シンバルが5, 螺貝の笛が3, 銅の長笛が
2, 七器が4セット, [E: 52] 大きな法の模様を持つトルマの台が4, 小さな
法の模様を持つものが2, 模様がないものが2, パティ [A: 104] ツエ (pa kri
rtse)⁽³⁵⁾ が68, 焼き物が3, 浄瓶が22, 模様が付いた銅の鍋が7, パクダムブル
マ (phag 'bram 'bur ma)⁽³⁶⁾ が [D: 40a]⁽³⁷⁾ 2, 小さな螺貝が5, 銅からできた小さな
ものが2, 大小の革のものが⁽³⁸⁾ 2, 計りが2, パテブ (pa teb)⁽³⁹⁾ が25, 大きなエン
(en)⁽⁴⁰⁾ が7, 法の模様があるものが1, 真鍮の曼荼羅が3, 打木が2セット, 大
きな真鍮でできた法の模様がある護法神シェキョク (bzhes skyog)⁽⁴¹⁾ が1 [あった]。
これらはレーニのペマメージュン [D: 40b] のお堂にある。

教師である小翻訳師レクベーシェーラブが翻訳師の [A: 105] お堂に法具を
差し上げた内容は, 14巻帙, 片方ずつのシンバルが3, 銅の長笛が1セット,
丸いものが2, 七器が1セット, 真鍮の入れ物で [D: 41a] 足がついているも
のが1, 真鍮の器が1 [であり,] これらの仏具を差し上げて, 少なくない贈り
物をなされた。⁽⁴²⁾

特に, 後に⁽⁴³⁾ (二回目に) 大翻訳師 (リンチェンサンポ) がカシミールに行かれた

時, [E : 53] ハラマ・イエシェーウーが大翻訳師に智慧のある5人の若者と5人の召し使い, 信用のある5人の [D : 41b] ⁽⁴⁴⁾15人を弟子として集めた。8種類の骨を資金として [A : 106] 差し上げた [その] 時, このレクペーシェーラブは特別な側近⁽⁴⁵⁾であって信頼でき, 身・口によって [翻訳師の] 世話を命をかけてなされた。その恩恵に対して, [イエシェーウーは] チョクロ (chog ro) のコケルクシュ (go ger ku shu)⁽⁴⁶⁾ までと, テイマ (ti ma) 峠の下のスムカタル (gsum kha dar) の滝と [D : 42a] 一緒に, 東は平原で区切り, 南は雪山で区切り, 西は岩山で区切り, 北は川で区切った⁽⁴⁷⁾良い畑と木と遊牧地を伴った土地をハラマの先祖の印と翻訳師の印を一緒にしたものを小翻訳師 [A : 107] レクペーシェーラブに与えた。因って, 大小の村のどの村でも [D : 42b] 占領せず⁽⁴⁸⁾ (争わず), 要求せず⁽⁴⁹⁾, 損害もなかった。

智慧のある5人の若者のうち2人は熱病で亡くなった。[残ったのは] 3人いて, マンウエル翻訳師チャンチュブシェーラブ (mang wer lo tstsha ba byang chub shes rab)⁽⁵⁰⁾, マ翻訳師ゲロ (rma lo tstsha ba dge blo)⁽⁵¹⁾, ザン翻訳師リンチェンシヨンスヌ ('dzang lo tstsha ba rin chen gzhon nu) の3人である。彼ら3人もまた [E : 54] 大翻訳師の大弟子であって, [イエシェーウーは] マンウエル翻訳師チャンチュブ [D : 43a] シェーラブにはティワク (ti wag)⁽⁵²⁾ を与え, マ翻訳師ゲロにはリティ (ri khri)⁽⁵³⁾ を与え, ザン翻訳師リンチェンシヨンスヌにはツェメー (tshad med)⁽⁵⁴⁾ [A : 108] を与え, マンティツァ (mang kri rtsa) 以下からシンハク (shing hrags) 以上まで⁽⁵⁵⁾とトゥンシ (dun shi)⁽⁵⁶⁾ の岩山で区切った谷奥の遊牧地の山と一緒に与え, レーニの護法神に祀る小麦粉を半ケル (khal)⁽⁵⁷⁾, 凝乳⁽⁵⁸⁾を1ケル, [D : 43b] バターを1デ (bre), 野生の馬の手を1つ, これらを差し上げる必要があった。大翻訳師の家系の従者にトゥルヤン ('grul yang)⁽⁵⁹⁾, タクツェ (rtag tse), サンチャ (bzang cha) も与える必要があった。

(108の寺院の建立について)

他にも [リンチェンサンポは] 21の小さな土地を祀って, プランのシェルパ (zher pa), コカル, プルカル (pur khar), ボリ (bo ri)⁽⁶⁰⁾, ヤングユル (g.yang sgyur)⁽⁶¹⁾,

ティヤク (ti yag), [D : 44a] ツエ⁽⁶²⁾メー, ネウ (sne'u), ニワン⁽⁶³⁾ (nyi wang), [A : 109] ショリン (zho ling), ギュラン (rgyu lang), ロアク⁽⁶⁴⁾ (ro ag), チョク⁽⁶⁵⁾ロ (cog ro), リ⁽⁶⁵⁾ティ, ハン⁽⁶⁶⁾テー (hrang trad), ラリ (la ri), タ⁽⁶⁷⁾ボ (rta pho), シャン⁽⁶⁸⁾ (shangs), ツアラン (rtsa rang), デイル⁽⁶⁹⁾チュン (dril chung), ユルルン (yul lung) のこれらの土地にそれぞれお堂と法具を完全に揃えた。つまり、プランのカチャルとシェル以下、ホプランカ以上までの [D : 44b] [E : 55] 108 のお堂を建立されて、107 を建て終わって、最後にデイルチュンに 1 デほど [植えることができる大きさ] のお堂を建立されて、108 を満たし、合わせて完成した。

他にも、境界地域の [A : 110] お堂として、ロ (lho) のテカル (de gar), パク (dpag), ドゥン⁽⁶⁹⁾パク (drug pag) のモン (mon), ガラ (nga ra) のカナム ka nam, ロン⁽⁶⁹⁾チュンのプ (spu) の [D : 45a] これらと, つまりロンチュンに建立されたすべてのお堂もラマである大翻訳師が建立したのである。毎日、十法行を途切れることなくさした。仏塔を [D : 45b] お造りになったことは数限りない。

そのような偉大な人 (リンチェンサンポ) がホプ (ho pu) から蛇を捕まえて、草の箱に入れて弟子に言った⁽⁷⁰⁾のは、「キュワンの谷に着くまで蓋を開けるな」とおっしゃって送り出したが、[A : 111] 弟子はスムナム⁽⁷¹⁾ (gsum nam) のダティ (dra ti) で蓋を開けてしまい、一匹の大きな青い蛇が出てきて、水がそこに出てきてしまった。再び捕まえて「これは昨日のように [D : 46a] せずにキュワンの谷に着くまで蓋を開けるな」とおっしゃって送り出した。[E : 56] しかし、ナーガが [弟子たちの] 心を変えて、プの⁽⁷²⁾トウクタン (tug thang) で蓋を開けて、そこで逃がしてしまった。ラマである大翻訳師は、「弟子よ、さて [お前は] 従者と使用人の 2 つとして役に立たず、有情の福德に [も] ならなかった。そこで [蛇が] ⁽⁷³⁾出なければ、[D : 46b] 百の家がある (ような栄えた) 土地になることになるが、(先に蓋を開けてしまったので) 飢饉が [A : 112] ひどく、悪い暮らし⁽⁷⁴⁾の、枯れた土地にしかならない」とおっしゃった。

[10] (アティシャとの出会いについて)

第十に、すばらしい行をなされたことは、一般に、行はプランのシェル以下

からホプランカまで数限り無い行をなさったけれども、特にキャムシュクに多く居られた。キャムシュクに居られた [D: 47a] 時、弟子を派遣しながらプランのカチャルで小さな座を取った。[リンチェンサンポは] 夜明けと [共に] 行って、寺 [で] 野菜を茹でる [間に] 到着し、[そのように年をとっても] 健康であったという。そのようになさりながら、御歳 87 歳になった時、ジョボハチク (jo bo lha gcig, アティシャ atīṣa, 982-1054) を王が⁽⁷⁵⁾ [A: 113] 宮殿にお招きして、[アティシャが]⁽⁷⁶⁾ マナム (ma nam)⁽⁷⁷⁾ に居られた時、ラマである [D: 47b] 大翻訳師は、[E: 57] 「このジョボ (尊者) と知り合いではないけれども、彼はインドの成就者であり偉大な人である。わたしもまた大翻訳師として知られるチベットの偉大な人であるので、良いもてなしをすることはわたしにかかっている」とお考えになった。彼 (アティシャ) の供養の地であるキンリリン (skyin ri gling)⁽⁷⁹⁾ という所にジョボ (アティシャ) を [D: 48a] お招きして、大変ご奉仕なされた⁽⁸⁰⁾。

その時、ジョボは「大翻訳師よ、この法とこれ⁽⁸¹⁾をご存知か。これをご存知か」と、三歳と全ての顕密 [について] の [A: 114] 質問をなされたので、翻訳師⁽⁸²⁾ は「それも理解している、それも理解している」と申し上げたので、[アティシャは] 「それではわたしが [チベットに] 来る必要はなかった」とおっしゃった。[D: 48b] その夜、お休みになられた時、3階建てのお堂があって、1階には秘密集会の諸々の本尊、2階にはヘーヴァジュラの諸々の本尊、3階にはチャクラサンヴァラ (cakrasamvara) の諸々の本尊をお造りになっていて、翻訳師は夕暮れ時には1階で行をなさって、正午には2階、[D: 49a] 明け方には3階で [E: 58] 行をなされた。その後 [A: 115] 食事をする時、ジョボが、「大翻訳師よ、⁽⁸³⁾ 昨晚お堂で夕暮れ時は1階で、正午には2階で、明け方は3階で行をなされたのはなぜか⁽⁸⁴⁾」とおっしゃったので、翻訳師は「⁽⁸⁵⁾ そのように個別の本尊に関する生起次第と究竟次第をそれぞれ実践しました」と申し上げると、[D: 49b] ジョボは暗い顔をなさって、「わたしは (チベットに) 来る必要があった」とおっしゃった。そこで、大翻訳師は「それでは、どのようになさるのですか」と申し上げると、ジョボは「そのようにはしない。すべての法の所化の意 [A: 116] と照らして多くを行っても、多くの根本は味が同じである。した

がって、すべての生起次第と究竟次第は同じ座の上で [D : 50a] 実践してもよい」とおっしゃった。そこで、ラマである大翻訳師は盛大なガナチャクラ（聚輪）を準備して、金 12 サンと 30 ケルの大麦と、他にたくさんの財物を差し上げて、法と教えなどを請うと、[アティシャは] ⁽⁸⁶⁾具生サンヴァアラとターラー・アヴィダラ (abhi dha ra), [D : 50b] ジョボ流による大悲観音の 3 つの [E : 59] 灌頂の紹介と教えを残らずお与えになって [リンチェンサンポが] 行じたところ、三つとも本尊のお顔をご覧になった。[A : 117] 離戯の意を悟った。数限り無いすばらしい体験が生じたので、ラマである翻訳師はジョボの教えなどを信じ、⁽⁸⁷⁾大事にして熱心に守った。

[D : 51a] ⁽⁸⁸⁾その後、プランのシェルでジョボとお会いになった時、ジョボが「大翻訳師よ、あなたは翻訳に長けて有名であるので、わたしの翻訳師をするべきだ」とおっしゃったので、大翻訳師は「ラマよ、わたしの年齢は 88 歳です。⁽⁸⁹⁾自身の髪もこのように白くなりました。[D : 51b] 舌が [A : 118] もつれて汚い法の言葉を取り除くことができない。⁽⁹⁰⁾このことは言わないで下さい」と申し上げると、ジョボは「わたしには考える心はあるが話す舌がない」とおっしゃって絶望なさった。そこで、ナクツォ翻訳師ツルティムゲルワ (nag mtsho / tsho) lo tstsha ba tshul khirms rgyal ba) が翻訳をした。また、ジョボは「大翻訳師ラトナバラ ⁽⁹¹⁾(ratnaphala) (リンチェンサンポ) よ、あなたはたくさんの法を知り、[D : 52a] 心の本質を識別する優れたラマと [E : 60] お会いになった。生活の [ための] 財産もある。さあ、懸命に行きなさい」とおっしゃった。

そして、プランのシェルで、お堂に三重の印を [A : 119] 押してお誓いになったのは [以下の通りである。] 外の門には巻貝の [色の] 文字で、「わたしが来年の今日明日までの間に煩惱の心を [D : 52b] 一瞬でも生じたならばダーキニーによって罰を与えて下さい」と書いた。その内側の門には銀の文字で、「わたしが来年の今日明日までの間に菩提心と一瞬でも離れればダーキニーによって罰を与えて下さい」と書いた。お堂の [最も] 内側には金の文字で、「わたしが来年の今日明日までの間に無記の心が [D : 53a] 一瞬でも生じたならばダーキニーによって [A : 120] 罰を与えて下さい」という三重の印にはじめよ

りも最後 [の項目] を厳しく書いて集中して行をなさると、戯論から離れた法身と金剛のような三昧を得た。それらなど、すばらしい所で行をたくさん行われた。⁽⁹³⁾

そのような最上の人が [D : 53b] 誕生の [E : 61] 時、母上の右肩に孔雀が降りたことは、お身体が普通より美しいことを表している。左肩にホトトギスが降りたことは、法の心地よい音を奏でる証である。頭頂にオウムが [A : 121] 降りたことは、インドとチベットの両国の翻訳師をなさることを表している。「神足の如意」という [D : 54a] 成就を得て、[通常は] チベットからカシミールまで [行くのに] 3ヶ月ずつかかるところを、大翻訳師は向こう [カシミール] に6日、こちら [チベット] に6日で行かれたといわれる。

[11] (空行に行かれたことについて)

第十一に、どのように空行に行かれたかということは、ある人はオムロ (om lo) の源泉の神の池の石の上から空行に行かれたと言っているが、⁽⁹⁴⁾ そこで [D : 54b] 一年行をなさって空行に行かれたのではない。⁽⁹⁵⁾ 空行にはカツエの [A : 122] レウインコ (re wing go) で、羊の年 (1055年)、御歳 98歳になった時、冬の最後の月の 17日の婁宿に、⁽⁹⁷⁾ 利他のために⁽⁹⁸⁾ 空行に行かれた。⁽⁹⁹⁾ ブランのオムロの洞窟、⁽¹⁰⁰⁾ [E : 62] シンワン (shing wang) の [D : 55a] ヤングル (g.yang sgur) の谷奥、⁽¹⁰¹⁾ カツエコカル⁽¹⁰²⁾ のレウインコから空行に行かれた [ともいわれており、その] 様子は異なるものを示している。

それから、四柱八梁 (bka' [/ka] bzhi gdung brgyad) [の弟子たち] が供物を並べ、すべての僧と弟子が [リンチェンサンポの] ご遺体を浄めると、ご遺骨そのものは胡麻ほども現れなかった。しかしながら、世間に [D : 55b] 合わせて、[A : 123] 舍利は果物のオルマシ (ol ma si)⁽¹⁰²⁾ のようにとても赤いもの⁽¹⁰³⁾ が3つ現れて、空にさまざまな楽器の音が雷のように鳴り、空行に行かれた。

それから、1ヶ月ほど故郷の非人で法に明るい者や制伏された者たちが毎晩、泣き声をあげることが多くあった。そして、ある日、[D : 56a] 婁宿の満月の15日に、ご遺骨の安置所に虹と花の雨が降ることが多く現れて、⁽¹⁰⁴⁾ それ以後、非⁽¹⁰⁵⁾

(106) 人の悲しむ声 [A : 124] も止んだ。その理由⁽¹⁰⁷⁾をジョボチェンポハチク (アティ
シャ) に何うと, 「大翻訳師である菩薩は非人たちを哀れにお思いになって, 魔
物たちに空から無常の法を [D : 56b] [E : 63] お説きになって非人たちを法に
導き, それ以後⁽¹⁰⁸⁾苦しみはなくなったのである。最近では大翻訳師は西の極楽の
浄土で金色の光を持つダーキニーによって招かれ, 阿弥陀仏の御前に [D :
57a] 居られるのだ」とおっしゃって合掌なされた。

[A : 125] そのようなその偉大な人は, 仏である釈迦牟尼の化身であり, 成
就を得た人でなければ, この財産を汚す者たちは不運で, 最後の家系が途絶え
るようになる。それを避けることは非常に [D : 57b] 重要である。〔したがっ
て,〕身・口・意の供養の供養物とこれらの財産, 大翻訳師の家系, 大・中・
小の伝記, 法を含んだ目録, 国の印を持つ者たちは小さな村を守りなさい。お
堂と [A : 126] 財宝と法具などを守りなさい。

[E : 64] 「菩薩翻訳師の [D : 58a] リンチェンサンポの本生である苦行の灯
明, 伝記『水晶瓔珞』』というものはゲゲのキタンパ・ジュニャーナシュリー
(gu ge khyi rang [ʃ/thang] pa dznyā na shī) が文字を書いて完成した。

(奥書)

牟尼の教えである宝の法の蔵を保ち

偉業の光りを十方に照らした者

その仏の子にわたしは [D : 58b] 敬って合掌し

すべての世代において御足の蓮華を祀るように

シュリーデーヴァブラバードウルガタヴァーティー (śrīdevaprabhadrakavati)⁽¹⁰⁹⁾。

ゲゲのキタンパ・ベルイエシェーが [A : 127] トディンで書いた中の伝記であ
る。

この師とパンディタからこの法を受け, 法⁽¹¹⁰⁾の蔵, 富⁽¹¹¹⁾の蔵, 木の蔵などの詳し
い蔵⁽¹¹²⁾などについては, 大伝記⁽¹¹³⁾に明らかである。

四柱 [の弟子] は, カツェパ・リンチェンシェーラプ (kha tse ba rin chen shes

rab), ケンウエルパ・シェーラプタンパ (skyen wer ba shes rab dam pa)⁽¹¹⁴⁾, キタンパ・
イエシェーペル, トルポパ・チャンチュブニンポ (dol po pa byang chub snying po)
 である。八梁 [の弟子] は, ワセンパ・ヨンテンレクパ (wa san pa yon tan legs pa)⁽¹¹⁵⁾,
ヌプロツァワ・サンチヨク (snu bu lo tstsha ba bzang mchog)⁽¹¹⁶⁾, クルシンパ・ツオン
ドゥーギエルツェン (gur shing pa brtson 'grus rgyal mtshan), [A : 128] マナンパ・
ツルティムニンポ (ma nam pa tshul khriims snyin po)⁽¹¹⁷⁾, ゲタンパ・ペルキチャンチュ
ブ (dge thang pa dpal gyi byang chub), セパ・セルサン (sas pa gser bzang), [E : 65]
ワコパ・ヨンテンシェーラプ (wa go ba yon tan shes rab), センカルパ・ソナムシ
エーラプ (seng dkar ba bsod nams shes rab)⁽¹¹⁸⁾ の 8 人である。吉祥あれ。

略号及び文献の略称

- 中本 A : *byang chub sems dpā' lo tstsha ba rin chen bzang po'i 'khrungs rabs dka' spyad sgron ma nram thar shel gyi phreng ba lu gu rgyud*. 『リンチェンサンポ伝記集』 no. 3.
- 中本 B : 表紙タイトルなし. In Sa phud thub bstan dpal 'dan (ed.). *chags rabs gnad don kun tshang (An introduction to History, Monasteries, Casteles, and Buddhism in Ladakh)*. Leh. 1976: 55-84.
- 中本 C : *byang chub sems dpā' lo tsa' bar in chen bzang po'i nram thar 'bring ba dka' spyad sgron ma shel phreng lu gu rgyud*. In Chos dbyings rdo rje (ed.). *bod ljongs nang bstan*. 1990-1: 134-150.
- 中本 D : *lo tshatsa ba rin chen bzang po'i nram thar*. De Rossi Filibeck (2003: 330, no. 654), 魏正中・萨尔吉 (2009 : 133-162).
- 中本 E : *lo tsatsha ba rin chen bzang po'i 'khrungs rab nram thar 'brin po ka dpyad rin chen sgron me*. 『ポタラ宮殿所蔵の伝記』 : 26-73.
- P : 『大谷大学図書館所蔵 西蔵大蔵経甘殊爾勘同目録』 京都 : 大谷大学図書館, 1930-1932.
 『大谷大学図書館所蔵 西蔵大蔵経丹殊爾勘同目録』 京都 : 大谷大学図書館, 1965-1996)
- 『イエシェーウー伝』 Gu ge mkhan chen Ngag dbang grags pa (b.14c.). *lha bla ma ye shes 'od kyi nram thar rgyas pa*. ラサ : 西蔵人民出版社. 2016.
- 『ガリ王統史』 Gu ge mkhan chen Ngag dbang grags pa (b.14c.). *mnga' ris rgyal rabs*. In R. Vitali. *The Kingdom of Gu ge Pu hrang: According to mnga' ris rgyal rabs by Gu gem khan chen ngag dbang grags pa*. Dharamsala. 1996.
- 『デウ仏教史』 Mkhas pa lDe'u (b.13c.). *rgya bod kyi chos 'byung rgyas pa*. ラサ : 西蔵人民出版社. 1987.
- 『テプテルゴンポ』 'Gos Lo tsā ba Gzhon nu dpal (1392-1481). *deb ther sngon po: The Blue*

Annals (*Śata-Piṭaka Series* 212). New Delhi: International Academy of Indian Culture. 1974.

『ポタラ宮殿所蔵の伝記』 Ser gtsug nang bstan dpe rnying 'tshol bsdu phyogs sgrig khang (ed.). *lo tsā ba rin chen bzang po dang/ lo tsā ba blo ldan shes rab/ chag lo tsā ba chos rje dpal bcas kyi rnam thar* (gangs can khyad nor dpe tshogs. 485). ラサ. 2016.

『リンチェンサンポ伝記集』 Rdo rje tshe brtan (ed.). *Collected biographical material about Lo chen Rin chen bzang po and his subsequent reembodiments: A reproduction of a collection of manuscripts from the library of dKyl monastery in Spiti*. Delhi. 1977.

参考文献

井内真帆 (2002) 「Rin chen bzang po 伝研究—mNga' ris における仏教復興運動について—」(修士論文 2002 年大谷大学提出)

井内真帆 (2003) 「Gu ge-Pu hrang 王国の仏教復興運動における lHa lde の役割について—王位継承に関する一考察—」『日本チベット学会会報』 49 : 47-61.

井内真帆 (2021a) 「皇帝家の失墜と仏教復興」岩尾一史・池田巧 (編)『チベットの歴史と社会』(上) 京都 : 臨川書店 : 28-49.

井内真帆 (2021b) 「キタンパ・イエシエーベル著「リンチェンサンポ伝」中本の和訳(一)」『佛教學セミナー』 114 : 1-21.

De Rossi Filibeck, E. (2003) *Catalogue of the Tucci Tibetan Fund in the Library of ISIAO*. vol. 2. Roma: Istituto Italiano per l'Africa e l'Oriente.

Gu ge Tshes ring rgyal po (2006) *Mnga' ris chos 'byung gangs ljongs mdzes rgyan*. ラサ : 西藏人民出版社.

Nebesky-Wojkowitz, R. (1956) *Oracles and Demons of Tibet: The Cult and Iconography of the Tibetan Protective Deities*. 's-Gravenhage: Mouton.

Petech, L. and Luczanits, C. (1999) *Inscriptions from the Tabo main temple: Texts and Translations* (*Serie Orientale Roma*. 83). Roma: Istituto Italiano per il Medio ed Estremo Oriente.

Snellgrove, D. L. and Skorupski, T. (1980) *The Cultural Heritage of Ladakh*. vol. 2. Warminster: Aris & Phillips.

Tucci, G. (1988) *Rin chen bzang po and the Renaissance of Buddhism in Tibet around the Millennium* (*Indo-Asian Literatures*. 348). New Delhi: Aditya Prakashan.

Vitali, R. (1996) *The Kingdoms of Gu ge Pu hrang: Accoding to mNga' ris rgyal rabs by Gu ge mkhan chen Ngag dbang grags pa*. Dharamsala.

魏正中, 萨尔吉 (共訳) (2009) 『梵天佛地 : 仁钦桑波及公元 1000 年左右藏传佛教复兴』第 2 卷. 上海/Roma : 上海古籍出版社/Istituto Italiano per l'Africa e l'Oriente.

(令和 2 年度科学研究費 20H01327 による研究成果の一部)

(1) 本稿は修士論文である井内 (2002) の翻訳をもとに加筆訂正したものである。本

翻訳の発表に当たり、カンカル・ツルティムケサン先生（日本名は白館戒雲、大谷大学名誉教授）に不明な点をお聞きした。また、特に密教関係の用語について菊谷竜太准教授（高野山大学）にご教授いただいた。記して感謝申し上げたい。

- (2) 中本 D : nyi khris lngas ston pa/ khri brgya stong pa/ shes rab khri badang gsum/
- (3) 中本 A 及び中本 D のみ。中本 D : ye shes sde.
- (4) 中本 E のみ。
- (5) 護法神のことで、中本 A では dpe dkar, 中本 B では dpe dkar となっており、Nobesky-Wojkowitz (1956 : 94-133) は pe har とする。
- (6) スヴァーシタとの共訳には、北京版チベット大蔵經に 2 点 (P. 2663, 5189) ある。
- (7) 中本 E : lha chen po.
- (8) 中本 E : zhol.
- (9) Tucci (1988 : 63) によると、ホブランカはラダックの北西のカプル (khaplu) に位置し、現在でもランカ (lang ka) と呼ばれる村があるという。
- (10) リンチェンサンポの伝記では、カチャルの建立をハデの時とするが、『デウ仏教史』(381) はカチャルの建立をイエシェウーの時とする。
- (11) ニヤルマは現存するマルユル (ラダック) の中心となる寺院。
- (12) 中本 A : bcas phrang zam pa la, 中本 E : ca phrang zab pas.
- (13) 中本 A 及び中本 D のみ。
- (14) 中本 D : lnga.
- (15) 中本 E : bhi ra ka.
- (16) 中本 A のみ。
- (17) 中本 A のみ。
- (18) 中本 A : rab gnas kyis zhal spro, 中本 E : bkra shis zhal gro.
- (19) 中本 A のみ。
- (20) 中本 E のみ。中本 E には、「1 サンを賃金にして頼んで、道中、障りが起きないようにパンディタ・シュラッダーカラヴァルマンが法要をなされた。5 サンでお喜びになって」とある。
- (21) 中本 A のみ。中本 D 及び中本 E には、「故郷を出て3ヶ月、[像は] カツェのコカルに行かれた。今もカツェのコカルに居られる」とある。
- (22) 『ガリ王統史』(54) はパンキユ翻訳師の名を pang kung lo tsa ba とし、リンチェンサンポと共にカシミールから招いたパンディタに学んだとする。
- (23) 中本 A のみ。
- (24) イエシェウーがアティシャ招聘のために金を探しに行つてカルロクに捕まり、獄中で命を落としたという有名なエピソードは、リンチェンサンポの伝記、『ガリ王統史』、『イエシェウー伝』には見られない。井内 (2003) 及び井内 (2021a)。
- (25) 中本 A : ri rab tsam, 中本 D : sa ri tsam, 中本 E : pa ru tsam.
- (26) 中本 A : klu 'brog sman, 中本 E : klu 'brog mo sman.
- (27) ベマメージュン は現存しており、Gu ge Tshes ring rgyal po (2006 : 293-300) に詳しい。

- (28) 中本 A のみ。
- (29) 中本 A のみ。
- (30) 中本 E : ru lang khang dmar.
- (31) 中本 E : bcud 'brog mo so thur ma.
- (32) 中本 E : 'di ni bgegs kyi rgyal po bi na ya ga zhes bya ba yin.
- (33) 中本 E : klu bdun mo'i.
- (34) 中本 D : bzhi bcu zhe lnga.
- (35) 不明。中本 E : sa kri rtse.
- (36) 不明。
- (37) 中本 D : 'phags 'bram 'bur ma gsum.
- (38) 中本 E : bzhi.
- (39) 不明。中本 E : sa teb.
- (40) 不明。中本 E : dben.
- (41) 不明。
- (42) 中本 E : thugs mi skyung bar.
- (43) 中本 E : ting res.
- (44) 中本 A のみ。
- (45) 中本 E : yab mched drung.
- (46) 中本 D, 中本 E : gur ger ku shus.
- (47) 中本 A のみ。
- (48) 或いは zhe sdang. ツルティムケサン先生のご教授に拠る。
- (49) 訳は Snellgrove・Skorupski (1980 : 94) に拠った。
- (50) 中本 E : mang yer lotstsha ba byang chub shes rab.
- (51) 中本 E : rme lotsatsha ba dge blo.
- (52) 中本 D : sti yag.
- (53) 中本 E : rihri.
- (54) 中本 E : tshang med.
- (55) 中本 E : mang bkra shis rtse las bcad shing rtags kyi yal bcad pa'.
- (56) 中本 A のみ。
- (57) Snellgrove・Skorupski (1980 : 94) に拠った。
- (58) 中本 A : ru ma, 中本 E : rgyu ma.
- (59) 中本 E : sta tsho.
- (60) 中本 E : bu ri.
- (61) 中本 E : g.yangskur.
- (62) 中本 D : stang med, 中本 E : tshag med.
- (63) 中本 E : nye wang.
- (64) 中本 E : ro pag.
- (65) 中本 E : re khre.
- (66) 中本 E : hrang hrang.

- (67) 中本 E : ta 'pho. 伝記ではリンチェンサンポがイエシエウーの死後に葬儀を行い、その返礼として、ハデによりタボを含む 21 の村が与えられたとあり、タボ寺の建立はイエシエウーの死後であることが伝えられている。しかし、タボ寺には 1042 年にチャンチュプウーにより改修された際の碑文があり、その碑文にはタボ寺が 996 年にイエシエウーにより建立されたたとある。Petech・Luczanits (1999 : 16) 参照。
- (68) 中本 E : shangs.
- (69) 中本 D 及び中本 E では若干綴りが異なる。中本 E : lho'i dkar dpag/ grug dpag gi mo na/ nga ra'i ka nam/ rong chung gi pu [中本 E : phu]/.
- (70) 中本 A のみ。
- (71) 中本 E : gsung nam.
- (72) 中本 E : rug thang.
- (73) 中本 A : de gcin gi ma thon nas, 中本 D : der gcig gis thon na, 中本 E : der gcig gi thon na.
- (74) 中本 E : skabs.
- (75) 中本 A : btsan par, 中本 E : btsun pas.
- (76) 中本 D : yang mnyam, 中本 E : mang nang.
- (77) 『ガリ王統史』(62)によると、マナム (またはマンナン mang nang) はチャンチュプウーの時に建立された寺院で、チャンチュプウーによって、マナムにチャンチュプゲネーリン (byang chub dge gnas gling) のお堂とベルチャムバベル (dpal byams pa 'phel) のお堂が建立されたという。
- (78) 中本 A のみ。
- (79) 中本 E : skyin ri glang. 『ガリ王統史』(62)によると、キンリリンは、チャンチュプウーの時にプランに建立された寺院であるようだが、現在その所在は確認できない。Vitali (1996 : 305) 参照。
- (80) 『テプテルゴンポ』(kha, 4b) は、キンリリンではなく、トディンに迎えたとする。
- (81) 中本 A のみ。
- (82) 中本 A のみ。
- (83) 中本 E : ...thugs dam mdzad pa la/ jo bo'i ma ha' lo tstsha ba dang gtsug la khang du/
- (84) 中本 A のみ。
- (85) 中本 A : de ltar, 中本 E : de.
- (86) 中本 A : lhan rgyas, 中本 E : lhan skyes.
- (87) 中本 A : rtsigs, 中本 E : rtsi rtsigs.
- (88) 中本 E : de'i steng nas.
- (89) 『テプテルゴンポ』(kha, 3b.3) はリンチェンサンポが 85 歳であったとする。アティシャとリンチェンサンポの共訳には、北京版チベット大蔵経に 16 点 (P. 17, 33, 2206, 2207, 2244, 2298, 2620, 2824, 2756, 2757, 2758, 3479, 3557, 4467, 4531, 5192) ある。
- (90) 中本 E : 'di mi yong ba zhu zhus pas/.

- (91) 中本 A のみ。Snellgrove・Skorupski (1980 : 96, n 42) は Ratnaphala を Ratnabhadra とする。
- (92) 中本 A のみ。
- (93) 中本 A のみ。
- (94) 中本 D 及び中本 E では若干異なる。中本 D : la la ni lha mo'i chu mig lha rdzong du bsgrubs nas/ rdo'i [中本 E : de'i] steng nas mkha' spyod du gshegs zer te/.
- (95) 中本 A のみ。
- (96) 中本 E : kha che.
- (97) 中本 E : tshe geig la.
- (98) 二十八宿の一つ。Snellgrove・Skorupski (1980 : 97, n 47) に拠った。
- (99) 中本 A のみ。
- (100) 中本 D : pu hrangs kyi bca' ye grag phug dang/, 中本 E : pu hrangs kyi sde ma'i ca yi ge brag phug dang/.
- (101) 中本 D 及び中本 E : shir wang gi g.yang skur gyi 'phug [中本 E : phug] dang/.
- (102) 中本 E : 'od ma se. Snellgrove・Skorupski (1980 : 97, n 50) は *berry* (果実, 木の實) とする。
- (103) 中本 A のみ。
- (104) 中本 A のみ。
- (105) 中本 D 及び中本 E : nam mkha' 'ja' tshon gyis khyab cing/ me tog gi char chen po babs so//.
- (106) 中本 A のみ。
- (107) 中本 A のみ。
- (108) 中本 E : des.
- (109) 中本 A : shri dhe ba pra bha du rta gabha ti, 中本 E : shri dhe pa pra bha du rtag bha ti.
- (110) 中本 A 及び中本 E のみ。
- (111) 中本 A のみ。
- (112) 中本 D : 'di nas 'di sgyur ba ni/ gsal bka' na/.
- (113) 中本 D はここで終わる。
- (114) 中本 E : skyin wer ba shes rab dam pa.
- (115) 中本 E : war zan pa yon tan legs pa.
- (116) 中本 E : snub lo tstsha ba bzang mchog.
- (117) 中本 E : ma ni pa tshul khirms snying po.
- (118) 中本 E にはこの後にロドウトンユー (blo gros don yod) による伝記の礼賛文が続く。『ポタラ宮殿所蔵の伝記』(2) 参照。